



TOKUSHIMA PREFECTURAL INTERNATIONAL EXCHANGE ASSOCIATION



2023.1

発行／公益財団法人徳島県国際交流協会

謹賀新年

年頭のご挨拶



公益財団法人徳島県国際交流協会
理事長 三好 誠治

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、健やかに新しい年をお迎えになったことと思います。

新型コロナウイルス感染症につきましては、昨夏、感染力の非常に強い「オミクロン株」への置き換わりが進み、かつてない規模で感染が拡大いたしました。

秋口を迎え、一旦落ち着いたものの、11月に入り新規感染者の増加傾向が続き、年末にかけて第8波の感染拡大となりました。一方で、3年ぶりとなる「行動制限を伴わない」夏休みとなった8月には、全国各地での人流が増加しました。

また、10月には入国者数の上限が撤廃され、個人の外国人旅行客もおおよそ2年半ぶりに入国が解禁されるとともに、「全国旅行支援」が開始されました。

徳島県国際交流協会においても、感染防止のために制限していた対面での事業は、基本的な感染防止対策を徹底した上で開始しております。

特に、阿波おどり交流事業「あらそわ連」は、感染者数が急増する中での難しい判断となりましたが、4年ぶりに出場することができました。

5回の練習に加え、本番では有料演舞場2か所に躍り込むなど、徳島を訪れている外国人・留学生の皆さんの、踊りたい、練習したいという熱意に沿うとともに、踊りを通して、徳島の文化を知っていただき、交流を深めることができました。無事に実施できたのは、外国人踊り子の皆さんをはじめ、御手伝いただいたボランティアの方々の、御理解御協力のおかげです。この場をお借りして、心よりお礼申し上げます。

さて、県内にお住まいの外国人は令和4年6月末で6,641人、徳島県民の106人に1人（約0.9%）であり過去最多を更新したところです。

また、国籍別ではベトナム・中国・フィリピン・インドネシアといったアジア圏が91.5%を占めております。

国におきましては、国際競争力強化の観点から留学生の国内就職支援も含め、専門的・技術的分野の外国人の就業を促進していることから、今後、更に増加が見込まれます。

これらの外国の方々と違いを認め合いながら、相互に理解し合い、共生する地域社会を築いていくことは、これからますます重要となります。

新しい年の徳島は、ドイツ・ニーダーザクセ

ン州との友好交流や、米国最大級の旅行博「LATAS」への出展などを契機に、2025年の「大阪・関西万博」に向けて、世界からの人やモノが行き交う国際交流・連携の舞台へと躍進していきます。

徳島が外国人の暮らしやすい地域となることはもちろんのこと、徳島の魅力を世界に発信し、多くの方に訪れていただけるよう、県や市町村、

民間団体の皆さんと連携し、多文化共生の町づくりを推進して参りたいと思います。

結びに、本年が皆様方にとりまして、幸多き年でありますことを御祈念申し上げますとともに、引き続き、当協会への御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます、年頭の御挨拶とさせていただきます。



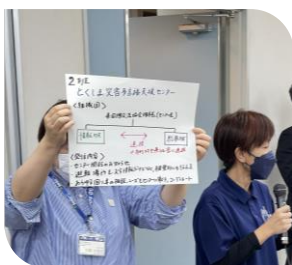
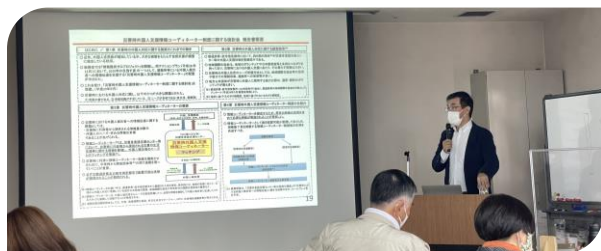
災害時に外国人支援に従事する 関係者向けの研修・訓練事業報告

令和4年10月27日（木）に 災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修・訓練をTOPIAの会議室にて実施いたしました。本研修・訓練には中国・四国の国際交流協会や県内の自治体関係者の方たち約40人にご参加いただきました。

前半の研修では、一般財団法人ダイバーシティ研究所の田村太郎代表理事が「災害時における外国人对応と多言語センターの役割」と題して災害時の外国人支援についてご講演いただきました。田村氏は災害時の外国人支援では日本で生まれ育ち、防災についての蓄積された情報（ストック情報）がある人たちに比べて、一般的な外国人は避難所に行くメリットや避難するときの注意点などのストック情報が不足しているため、災害が起こった際に「避難してください」、「地震が起きました」などのフロー情報のみでは適切な行動がとれないと言及し、

フロー情報を伝えるときは、どのような情報を提供したら適切なのかを考えないといけないと指摘されました。さらに、多言語支援に関しては外国人の背景や目的を的確に捉えた情報提供が必要であり、また、多言語化することで、外国人へ「安心感」を届けることが重要であると述べられました。その後、公益財団法人佐賀県国際交流協会理事長 黒岩氏より令和元年及び令和3年の豪雨災害時についての事例報告がなされ、平時の訓練と備え、そしてチームワークの大切さを訴えられました。

後半の訓練では、大規模災害が発生したという想定でセンターの立ち上げ訓練を行いました。6グループに分かれ、センター立ち上げに必要な体制や必要な備品、主な連絡先などについてグループ内で議論し、意見を出し合いました。各グループから出た意見は、「平時から地域外国人コミュニティを把握し、キーパーソンとなる人を通じての情報提供や安否確認を行う」、「アプリやツールを最大限に活用し、多言語で情報提供を行う」などでした。この訓練を通じ、自治体間の連携の重要性を再確認し、外国人への防災意識の啓発により一層取り組む必要性を感じました。



地域日本語支援ボランティア養成講座 IN 阿南

令和4年10月1日から12月3日にかけて阿南市国際交流協会の協力のもと、日本語支援ボランティア養成講座（全9回・実地研修1回を含む）を実施し、11名の方に受講いただきました。

今後も地域に増えるであろう在住外国人の方にとって、日本語教室は日本語学習はもとより、安心してこの徳島で生活するための情報を得たり、人との交流の場となっています。養成講座受講者の方たちには、在住外国人の方たちの心のより所としての日本語教室でボランティアとしてご活躍いただけることを願っております。

今回の受講者3名の方々の感想をご紹介します。

今回、日本語に向き合う機会をいただけたこと本当に感謝しております。講師の方々に県内在住の外国人の方々の現在の状況や具体的な支援、テキストを使って日本語を分かりやすく教えていただきました。

「日本語は難しいですね。」と、アジア圏の保護者によく言われていました。周囲は日本語ばかりの社会の中で大変だったのだと思います。自分自身も上海で居た頃、初め日本人社会の中だけで生活していました。一歩外に出ると全くコミュニケーションがとれず不安を感じた事もありました。

習った中国語が通じた時の楽しさ、相手も自分も笑顔になった時のうれしさを、少しずつでもここで実現できたらと思います。よろしくお願いします。



全9回の講座は笑いあり涙なしのとても楽しく日本語の支援について学べました。先生方は優しく丁寧に聞き取りやすく教えて下さり、わからないところはいつでも質問できる環境でした。

今まで何気なく使っていた日本語も、文法や支援の視点から改めて考えると難しかったですが、私は新たな発見のある講座が毎回楽しみで皆勤賞でした。

また、教室の雰囲気が和気あいあいとしていたのもあり、実地研修や模擬授業を乗り切ることができました。

これからも日本語支援の勉強を続けながら、多くの外国人に阿南の良さや日本の良さ、そして日本語の美しさを知ってもらえるようにお手伝いしていきたいと強く思いました。

先生方、受講生の皆様、関係者の皆様、有難うございました。貴重な時間を過ごせられましたこと感謝しております。



国際交流に対する知識もあまり持たず、養成講座を受講しました。ボランティアとは、相手に「寄り添う」「必要以上にプライベートにはいりこまない」「学習・教室が楽しい」そして「来日している

外国人の方々は私たちの生活を支えてくれている」という事を忘れずにと学び、気持ちを新たにしました。

日本人はともすれば、「してあげる」「してあげた」という満足感を持ちがちであると思います。お互いを助け助けられ、自分を高めることをボランティアを通して学ばなければならないと思います。

また、我々が生まれた時から当たり前に使っている日本語がこんなにも難しい言葉なのかと実感しました。外国人の方にどのようにこの言葉を伝えれば良いのかと思った時、我々も外国の言葉・文化を少しずつ理解しなければと思います。そして、日本人として母語を大切に丁寧に伝えることを心がけたいと思います。



徳島県とニーダーザクセン州は、平成19年以来友好提携関係にあり、昨年9月に15周年を迎え、様々な交流事業が行われています。その交流事業の一つに、当協会の語学ボランティアの方々にもボランティア通訳として活躍していただきましたので、ご報告いたします。

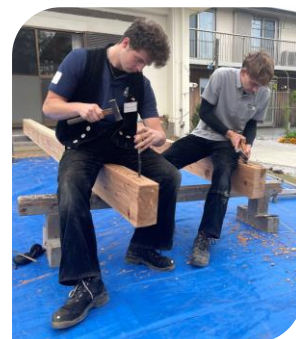
ドイツ・ニーダーザクセン州との産業人材育成交流について

徳島県産業人材育成センター
技術向上担当 主任 小泉 貴子

徳島県とドイツ・ニーダーザクセン州は、平成19年9月13日「交流に関する共同宣言」に調印し、経済、教育、スポーツ等の幅広い分野での交流を深めてきました。産業人材育成分野については、平成27年度に県立中央テクノスクールとリュネブルク・職業訓練センターとの間で、両施設の訓練生や指導員の交流が始まりました。平成29年度には、それぞれの産学官・連携団体である徳島県産業人材育成交流コンソーシアムとブラウン・シュヴァイク・リュネブルク・シュターデ手工業会議所との間で両州県相互の産業経済の一層の振興や、技術者・技能者の見識や専門分野の発展に寄与することなどを目的として「産業人材育成交流」に係る協定を締結し、職業訓練分野における同州との本格的な交流が行われるようになりました。平成30年度からは、徳島からドイツへは、美容、木工、自動車整備等の訓練生や学生、指導員等が、ドイツから徳島へは、金属、木工などの若手職人や訓練生、指導員などが訪問し、1週間程度、それぞれの職業訓練施設や企業等において視察や実習等を行ってきたところです。令和元年度に本県が訪独した後、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、ドイツの訪日ができなくなり、令和3年度まで本交流を中断しておりましたが、今年度渡航制限が緩和され、交流が再開されることとなりました。

ドイツから徳島への訪問は、令和4年11月6日から11月26日まで、大工、自動車整備分野の訓練生それぞれ2名、指導員2名の合計6名が来県し、県のテクノスクールにおいて1週間、工務店や自動車整備会社などの県内企業において2週間訓練や実習を行いました。一方、徳島からドイツへは、令和4年11月26日から12月3日まで、自動車整備、美容の訓練生や学生、指導員など計6名が訪独し、同州の職業訓練センターや企業とで訓練を行い、相互交流を図りました。本年度の新たな取り組みとして、ドイツからの訪問団の本県での受入期間を従来の1週間から3週間に拡大し、企業での実践的な訓練を増やすなど「実施プログラム」の充実・強化を図るとともに、県のテクノスクールにおいて、ドイツと本県の指導員による「共同授業」を行い、マイスターの本場である、ドイツの優れた技術や訓練内容を学ぶ機会を提供しました。

産業構造の変化や技術革新などに柔軟に対応し、本県経済が持続的な発展を続けていくためには、その原動力となる「人」の育成、とりわけ若手技術者の育成が重要であり、本事業を通して、本県の発展の基礎となる国際感覚や広い視野をもった産業人材の育成につなげていきたいと考えております。



ドイツ人訓練生受け入れの通訳

TOPIA語学ボランティア
田中 クレア

令和4年10月11日から日本の水際対策で大幅に入国が緩和され、観光ビザで来日しやすくなり、徳島県は3年前から温めていたドイツ・ニーダーザクセン州の訓練生受入事業をようやく実行できるようになりました。ドイツから来日する4名の若者、自動車整備2名と大工2名の通訳を徳島県から（公財）徳島県国際交流協会を介して依頼があり、担当することになりました。私はドイツ語ができないので、英語での通訳となりました。

私が携わった通訳は、自動車整備訓練生たちの通訳を西部テクノスクールで2日間と徳島市の自動車整備工場で4日間、そして大工チームの通訳を小松島市の工務店の現場で5日間しました。好奇心とユーモアにあふれるドイツの若者と現場の参加者たちの交流の架け橋になれてとても楽しかったです。

自動車整備も、大工もドイツの訓練生は知識が豊富で作業を積極的に取り組んでいたもので指示されたら動き出して通訳はそれほど必要ありませんでしたが、仕事の合間や休憩時間が特に通訳の出番でした。日本とドイツの現場の違い、若者の自由時間にどんな遊びが流行ってるか、将来の夢までいろんな話題が出ました。討論は別に激しかったわけでもなかったのですが、通訳の私は脳みそをいっぱい使って毎晩熟睡していました。

コロナ禍で仕事はずっとステイホームだった私は、久しぶりのフィールドワークが新鮮で刺激的でした。



（筆者中央）

ホームステイ・ホームビジット事業

3年ぶりに当協会では徳島県地域留学生交流推進協議会との共催で、徳島県内の留学生とそのご家族を対象に、ホームビジットを実施いたしました。今回は11月末から12月中旬にかけて、徳島県内留学生12名が参加しました。ホストファミリーの方たちと交流を深め、より一層、日本語や日本文化に興味を持っていただけたと思います。

ホストファミリーからの感想

- ☀️ 共に過ごす中で、コミュニケーションができたこと、お互いの生活や文化などについて共有できたことが、とても楽しく有意義に感じました。
- ☀️ 台湾やベトナムの話が聞けて楽しかった。海外から来てたくさんの苦勞もある中で、一生懸命頑張っている様子に刺激を受けた。
- ☀️ 今回初めてなので何を準備すればよいか、気に入っていただけるか、という点で少し迷いました。結局 田舎料理でしたが、喜んでいただけていたらよいのですが。

留学生からの感想

- 🌱 日本の文化を知ることができました。
- 🌱 徳島の名産（半田そうめん、フィッシュカツ）を食べれたこと、みんなと一緒に話ができたと、みんなと知り合ったこと、台湾について紹介できたこと、眉山の夜景を見れたこと。全部楽しかったです。
- 🌱 私の日本での生活の中で最も印象に残った素晴らしい経験でした。

皆さんの感想（一部抜粋）



国際理解支援フォーラム2022

責任ある外国人労働者受入れのための外国人支援者向け研修会 ～四国における外国人支援の発展と協働を目指して～

長期社会体験研修生
紀本 真理

去る10月26日（水）、国際理解支援フォーラム2022を開催いたしました。第1部では、「外国人受入れに関する動向」として、次の3者から話題提供がありました。JICA（国際協力機構）/JP-MIRAI事務局の江場氏より、外国人受入れの現状と将来予測の調査報告及びJICAの取組について、高松出入国在留管理局審査部門 芳賀氏より「入管から見る外国人との共生」と題し、外国人労働者と対等な人間として接し共生について考えていく重要性について、そしてNPO法人国際活動市民中心（CINGA）新居氏より「いま四国に求められる相談支援 国際交流協会と外国人相談の視点から」として、外国人の心の拠り所となる地域の国際交流協会等の役割と意義についてご講演を賜りました。

第2部では、「外国人が惹きつけられる徳島県吉野川市に学ぶ」というテーマに沿って、徳島県国際交流協会より徳島県の在住外国人の動向と多文化共生社会に向けた課題について発表した後、吉野川市国際交流協会会長萩森氏より「地域に根差した30年」と題し日本語教室を格に外国人と地域住民の交流が広がってきた活動の軌跡について、また社会保険労務士 細谷氏より「地域のつながりから広がる将来の夢」と題し、吉野川市で技能実習を経た後、特定技能等によるキャリアアップや徳島での生活を夢に持つ外国人がいることについてお話をいただきました。

第3部では、第1部と第2部を受け、登壇者によるパネルディスカッションを行いました。参加者の方からは、以下のような感想を頂戴しました。

- ✧ 外国人の現状を教えていただき、交流、支援が大切であることを実感した。
- ✧ 外国人受け入れに関する動向、実習生側と受入れ側の認識の際のトラブル、相談しやすいような日常的な付き合いが必要だということの一つの流れで触れることができた。
- ✧ 吉野川市国際交流協会を中心として、外国人とのコミュニケーションの取組を知ることができ、日常的な付き合いから話やすく、相談しやすい環境を作られていることを知った。
- ✧ 入管の方から直接お話を伺う機会は初めてだったのですが、業務を通じて知り得た外国人の本音をご紹介いただいたことで、改めて自分自身の外国人実習生との関わり方を振り返ることとなった。
- ✧ 入管などの取締機関、自治体の皆様が共生社会実現に向けての立ち位置について本音で話されていて徳島は素晴らしい対策が生まれると予感した。

吉野川市国際交流協会を中心とした事例から、外国人が地域で安心して労働・生活を営むには、必要なときには相談もできる日常的な関係づくりの場が不可欠だということを認識いたしました。日本で生活する外国人労働者が増えてきている中で、多文化共生社会を形成する日本人と外国人の双方向のやり取り、情報の提供や支援を効果的に進めることが期待されます。今、日本の約40人に1人、徳島県の約106人に1人が外国人住民です。今回のフォーラムを通して、参加されたみなさまが、ともに多様性を認め合いながら、同じ地域に住む隣人として良い関係性をつくり住みやすい社会について考えるきっかけができたのではないのでしょうか。TOPIAはこれからも、みなさまと共に多文化共生社会について考える機会をつくっていきます。



TOPIA ホームページで、研修会開催報告及び動画（一部）を公開しています。ぜひ、ご覧ください！

■ TOPIA ホームページ



■ Youtube 動画



JICA徳島デスクのページ

JICA（独立行政法人 国際協力機構）は、日本のODA（政府開発援助）の実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。「信頼で 世界をつなぐ(Leading the world with trust)」というビジョンを掲げ、多様な援助手法を組み合わせ、最適解決策を提供することで、開発途上国が抱える課題解決を支援していきます。

2022年度JICA海外協力隊短期募集

JICA海外協力隊（短期）は、アジア・アフリカ・中南米・大洋州・中近東の国々で1か月から1年未満の活動を行います。「自分の持っている技術・知識や経験を開発途上国の人々のために生かしたい」という強い意欲を持った方を募集しています。コロナ感染拡大した2020年以降初めての短期隊員募集になります。実際の派遣は2023年夏以降になります。

【募集期間】 2022年12月16日(金)～2023年1月12日(木) 日本時間正午締切
【応募資格】 生年月日が1953年1月14日から2003年7月2日までの日本国籍を持つ方
【応募方法】 ウェブ応募（応募者調書、応募用紙の提出）※ 問診票、健康診断書は郵送。
【募集詳細】 JICA 海外協力隊ウェブサイト
(<https://www.jica.go.jp/volunteer>)をご参照ください。
[応募に関するお問い合わせ先] 電話:045-410-8922

■**JICAの支援メニュー**：JICAでは、日本の地域で発展してきた技術や経験を開発途上国の発展にも活用し、国際協力を通じて地域の活性化や国際化にも貢献していきます。

◆JICA海外協力隊事業〔長期募集/2年〕

開発途上国からの要請（ニーズ）に基づき、それに合った技術・知識・経験を持ち、「開発途上国の人々のために生かしたい」と望む方を募集し、選考・訓練を経て派遣します。帰国後もグローバル人材としての活躍が期待されています。

【募集期間】 年2回（春・秋）を予定しております。

募集に関する詳細は、JICA海外協力隊ホームページをご覧ください。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/index.html>

◆草の根技術協力事業

NPO団体等の市民の皆様の技術協力を通じて途上国の方々の生活改善を支援します。

【事業の期間と予算は規模に応じ以下の3コース】

- 支援型（3年以内、1,000万円以内）
- パートナー型（3年以内、1億円以内）
- 地域活性型（3年以内、6,000万円以内）

<https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/index.html>

◆研修員受入事業

開発途上国からの研修員が四国の知識、経験を学んでいます。大学・地方自治体・民間団体などの協力を得て、四国の特性を活かした四国ならではの研修を実施しています。

◆民間連携事業

四国の技術の世界へ！民間企業の技術やノウハウと途上国の開発課題のマッチングを通して、民間企業の海外進出を支援する中小企業・SDGsビジネス支援事業を実施しています。また、JICA海外協力隊活動を通して、社内のグローバル人材育成を支援するJICA海外協力隊（民間連携）プログラムを実施しています。それぞれのプログラムの詳細は、JICA民間連携事業HP(https://www.jica.go.jp/priv_partner/index.html)をご覧ください。

◆開発教育支援事業

地域や学校の皆さんと世界を学びます。

- ・教員向けJICA地球ひろば「先生のお役立ちサイト」学習指導案・写真・映像・パンフレットデータ・教材
- ・教師海外研修
- ・教員のJICA海外協力隊への現職参加
- ・協力隊経験者による出前講座
- ※詳細は、JICA四国HPをご覧ください。

JICA徳島デスクはしばらく不在にしております。ご連絡お問い合わせはJICA四国までお願いします。

独立行政法人 国際協力機構 四国センター（JICA 四国）

〒760-0028

香川県高松市鍛冶屋町3番地 香川三友ビル1F

TEL : 087-821-8825

FAX : 087-822-8870

Email : jicaskic@jica.go.jp



防災センター・スタディ・ツアー



当協会では、県内在住外国人の方々に地震やその他様々な災害について学び、日々の備えに生かしてもらうことを目的とし、毎年、防災センター・スタディ・ツアーを開催しています。今年度は、令和4年10月16日（日）に開催し、6か国16名の方々が参加して下さいました。

最初に、防災ガイダンスのコーナーで、徳島県が作成した「津波から命を守る」の映像を見ながら地震から発生をする津波の仕組みや発生時の対処法を学びました。続いて、消火、煙、暴風の体験をしました。

今回のツアーで得た知識を参考にし、いつ起こるかわからない災害に対して備えていただければ幸いです。

また、当協会では在住外国人の方たちに向けた「防災出前講座」を実施しています。ご興味ございましたら、是非、当協会までお問い合わせをお願いいたします。



とくしま農山漁村「ふるさと」

応援し隊事業



徳島県が実施する「とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業」のふるさと団体「しでの会」からの依頼で、当協会から参加者15名（中国、韓国、インド、バングラデシュ、キルギス、カナダ、ノルウェー、メキシコ）が「八朔の収穫作業」を応援しました。

美馬市穴吹町口山仕出原の「しでの家」で、「しでの会」の方から八朔収穫の注意点等の説明後、4班に分かれて、作業に取りかかりました。農家の方の応援ということで、参加者全員、元気に頑張って収穫をいたしました。

4時間程度の収穫でしたが、時間はあっという間にすぎ、参加者たちからは、「八朔畑を見たのは初めてです」、「充実した時間を過ごすことができました」、そして、小学生の参加者からは「ここに毎月来たいです！」などの感想をいただきました。



ウクライナから避難された方への支援

徳島県立徳島商業高等学校の生徒の皆様からコロナ禍における感染防止対策グッズを、また、美馬市の森本昇様からはウクライナ支援チャリティーコンサートの収益金を、徳島市の個人の方からまとまった寄付金を県内在住のウクライナ避難民の方に贈呈しました。ありがとうございました。

問い合わせ：公益財団法人徳島県国際交流協会

〒770-0831 徳島市寺島本町西1-61 クレメントプラザ6F

開所時間：月曜日～日曜日 10：00～18：00

TEL: 088-656-3303 FAX: 088-652-0616 URL: <http://www.topia.ne.jp>